

2022 年度はコロナ禍 3 年目の年となり、アーティストや文化団体は、ウィズ・コロナ時代がもたらした「ニューノーマル」な状況に応じた術を身につけながら、コロナ禍で途絶えていた活動を徐々に再開していきました。このような中、ASK は 2022 年度から、公募で採択したプロジェクトに対して寄付を集め助成するクラウドファンディング助成を新たに開始しました。集まった寄付は 800 万円を超え、手数料を除いた計 714 万円を 8 件のプロジェクトに助成しました。一方、寄付者のファンドから支援する「個別寄金助成」では 11 件に対して 594 万円を助成しました。また、用途の指定のない寄付を原資とする「一般公募助成」では、アーティストや団体の声に耳を傾け、寄り添いながら支援する「伴走型支援」を継続して行い、15 件・500 万円を助成しました。

## クラウドファンディング助成

(8 件 714 万円)

公募で採択されたプロジェクトを WEB で公開し、それに賛同した方々から寄付を募り、集まった寄付から助成する新しい取り組み。公益財団法人が行うクラウドファンディングとしては国内でも先駆的なもの。対象分野は、美術・デザイン、音楽、舞台芸術、伝統芸能の 4 分野。

### 有限会社一九二八『ギア』新バージョン制作プロジェクト」(舞台芸術)

助成額：11 万円  
場所：1928 ビル (京都市)  
実施期間：2022 年 4 月 1～2023 年 3 月 31 日

**活動概要：**京都にあるギア専用劇場にて、2012 年から 10 年にわたりロングラン公演を続けている言葉を使わないノンバーバル劇『ギア』。セリフを使わず、光や映像、マイム、ブレイクダンス、ジャグリングなどを盛り込んだ小さな子供も外国人も楽しめるコンテンツとして構成されている。舞台芸術の新たな可能性として社会に一石を投じた。2022 年に公演 10 周年を迎えるにあたり、この度新バージョンの制作に取り組んだ。  
**制作者からの声：**2023 年 1 月に 3800 回公演を達成しました。これからも応援をお願いいたします！



### 座・一座「罪人こぞりて」(舞台芸術)

助成額：5.3 万円  
場所：ムーブファクトリースタジオ (大阪市)  
実施期間：2022 年 6 月 3 日～6 月 4 日

**活動概要：**座・一座は 1993 年に大阪で旗揚げされた劇団。座長の山崎千恵子を中心に、既存の演劇の類型化を避け、オリジナル作風にこだわった活動を行う。「罪人こぞりて」は、ある事件で逮捕された容疑者が取調室で刑事に語る再現ドラマ仕立て。憧れの先輩へ向けた過剰な願望投影がもたらした命を落とした先輩の死は、果たして罪に問われるのか。有罪か無罪かの表決は観客の投票で決まり、後日 WEB でその結果が発表された。  
**劇団からの声：**今回の取り組みは、普段座・一座をご存じない方にも知っていただく機会となりました。



### Positionalities 展実行委員会「Positionalities 展」(美術)

助成額：65 万円  
場所：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA (京都市)  
実施期間：2022 年 7 月 30 日～8 月 28 日

**活動概要：**気鋭の批評家・山本浩貴氏をキュレーターに迎え、作風も表現方法も異なる 3 名の現代美術アーティスト東恩納裕一、金光男、山田周平による立体、映像、平面などの作品で構成された展覧会。立場の違いといった意味を示唆する「Positionalities」をタイトルに掲げ、作家それぞれの立ち位置の差異、社会に存在する多様な差異、そして作品を介して対峙する鑑賞者と作家との差異といった様相を提起した。  
**主催者からの声：**多くの美術雑誌に掲載されたほか、全国の美術館関係者の方々にお越しいただきました。

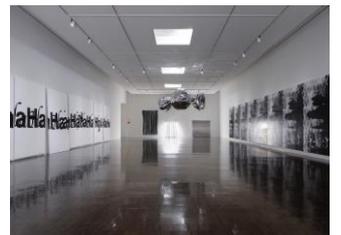


Photo: 来田 猛

### 公益財団法人山本能楽堂「The Spirit of the Moon」(伝統芸能)

助成額：282 万円  
場所：山本能楽堂 (大阪市)  
実施期間：2022 年 9 月 12 日

**活動概要：**世界的な指揮者ケント・ナガノと観世流能楽師・山本章弘氏が「月」をテーマに能舞台で共演した『The Spirit of the Moon』。オペラや現代音楽の指揮で高い評価を得るケント・ナガノ氏が長年構想してきたもの。ハンブルク・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーと世界的なメゾソプラノ歌手藤村実穂子氏がシェーンベルグの「月に憑かれたピエロ」を演奏し、山本章弘氏が今昔物語に出てくる兎の物語を題材にした新作能を上演した。  
**主催者からの声：**まさに奇跡のような公演でした。皆様のご支援で実現できました。心より感謝申し上げます。



Photo: 高橋拓人

## 劇団五期会「ハムレット奇譚」(舞台芸術)

助成額：71万円  
場所：ABCホール(大阪市)  
実施期間：2022年9月30日～10月2日

**活動概要**：劇団五期会はNHK専属の大阪放送劇団として1973年に発足。2023年で50周年を迎える老舗の劇団。シェイクスピアの「ハムレット」の奇譚として、ハムレットの友人ホレイシヨーらによって語られるもう一つの悲劇の物語。語り部の口から驚くべき人物の相関関係が明かされる。物語の舞台は爆撃を受けて崩壊する劇場へタイムスリップし、現在のウクライナ戦争の悲劇を彷彿とさせた。

**劇団からの声**：お客様から翻案部分に込めた現代性の部分に興味を持ったとの声をいただき嬉しかったです。



## 株式会社アートローク「Study:大阪関西国際芸術祭」(美術)

助成額：95万円  
場所：グランフロント大阪、船場エクセルビル、大阪府立中之島図書館、THE BOLD OSAKA ほか(大阪市)  
実施期間：2023年1月28日～2月13日

**活動概要**：2025年の万博の年に大阪で世界最大規模の芸術祭「大阪関西国際芸術祭(仮)」を開催することを目指し、そのプレイベントとして昨年より「Study」と題して開催してきた現代アート・フェスティバルの第2回目。昨年よりも参加作家および規模が拡大され、グランフロント大阪、船場エクセルビル、西成区の飛田新地などを会場に、アートフェアやアートダイニングも加わり、アートの様々な楽しみ方を提示した。

**主催者からの声**：ウクライナや東南アジアからのアーティストも参加し、より国際的な形で開催できました。



## 空花「絵画というリサイタル@ザ・シンフォニーホール」(美術)

助成額：44万円  
場所：ザ・シンフォニーホール(大阪市)  
実施期間：2023年3月13日

**活動概要**：美術家・山口和也はコンサートホールのステージ上で、絵筆の音をホール全体に響かせながら絵を描くライブパフォーマンスを行う。そこで生まれた「絵画の音」は、行為としての絵画の意味を問いかける。将来ザ・シンフォニーホールでライブを行うことを想定して、自身の絵画をその描画時の音を鳴り響かせながらホールのステージ上に展示する展覧会「絵画というリサイタル@ザ・シンフォニーホール」を開催した。

**山口さんからの声**：今回は美術家による世界初のリサイタル本番を、このクラシック音楽の殿堂で実現します！



## 杉江能楽堂を活かすプロジェクト実行委員会「杉江能楽堂体験プロジェクト」(伝統芸能)

助成額：142万円  
場所：杉江能楽堂(岸和田市)  
実施期間：2023年2月19日～26日

**活動概要**：建立から100年以上にわたり非公開であった岸和田市にある杉江能楽堂。邸宅の一部として設えられた半屋外の貴重な能楽堂として昨年、国登録有形文化財に登録。この能楽堂が持つ魅力、価値、歴史を広く多くの方に知ってもらい次の100年へと継承していこうと、杉江能楽堂にて、能楽、上方舞、落語、茶道といった伝統芸能の魅力に触れる「杉江能楽堂体験プロジェクト」を実施。多くの来場者を集めた。

**主催者からの声**：寄付ばかりでなく、多くの温かいメッセージやお声を頂いたことも大きな成果でした



個別寄金助成

(11件 594万円)

### 八千代電設工業伝統芸能支援寄金助成(2件 50万円)

能狂言における青少年への教育普及を目的とした事業を支援

## 「能 meets 天女 能 meets 京丹後」(伝統芸能)

助成先：大の会  
助成額：25万円  
場所：アグリセンター大宮(京丹後市)  
実施期間：[稽古]6月19日、7月23日、8月24日、8月25日 [発表会]8月28日

**活動概要**：能 meets という能楽普及プログラムに精力的に取り組む能楽師の林本大が、京丹後市の子どもたちを対象に能の稽古を行い、地元の会場の舞台上で発表会を行った。稽古では能の解説や着替えの実演を交え、初心者でも参加しやすい内容を工夫して行った。発表会は、参加した8名の子どもたちが実際に着物と袴をつけて舞台上になり、能の天女を演じた。来場した100人を超える地元観客とともに能楽を楽しみ体験した。

**ご担当者からの声**：子供たちから「能を習ってみたい」との声があがったことが、一番の成果でした。



## 「おひなまつり・青少年のための能ワークショップ」(伝統芸能)

助成先：一般財団法人 日本伝統芸術文化財団  
助成額：25 万円  
場所：西宮能楽堂（西宮市）  
実施期間：2023 年 3 月 4 日

**活動概要：**西宮能楽堂にてひな祭りをテーマに子供を対象にした能のワークショップを開催。「ひな祭り」の飾りとして登場する五人囃子が、能の囃子と謡であることから、ワークショップを通して、日本の四季の行事と伝統芸能との関連を学ぶ機会とした。能楽師・梅若基徳氏による能とひな祭りについてのわかりやすい解説および実際に能面を付ける体験をしてもらい、最後に約 700 年もの歴史ある能「羽衣」の舞を鑑賞した。  
**主催者からの声：**わかりやすい能の解説や能面を実際に付ける体験は、大変好評でした。



## 寺田千代乃 上方落語若手噺家支援寄金助成（1 件 50 万円）

上方落語の若手噺家の育成を目的として毎年天満天神繁盛亭で開催される上方落語若手噺家グランプリを支援

## 「第 8 回上方落語若手噺家グランプリ 2022」(伝統芸能)

助成先：公益社団法人上方落語協会  
助成額：50 万円  
場所：天満天神繁昌亭（大阪市）  
実施期間：予選 2022 年 6 月 7 日、14 日、21 日、28 日 決勝 2021 年 8 月 23 日

**活動概要：**2015 年に上方落語の若手噺家の育成を目的に 500 万円の寄付で設けられたファンドから、毎年天満天神繁盛亭で開催される「上方落語若手噺家グランプリ」に対して 50 万円を支援。2022 年度で 8 回目を数え、関西の若手噺家の登竜門として定着している。満席となった決勝戦では、予選を勝ち抜いた 8 名（1 名欠席）が出演。審査の結果、グランプリには笑福亭生寿さん、準グランプリに桂二葉さんがそれぞれ輝いた。  
**生寿さんからの声：**今回古典落語の演目で賞をいただきました。古典落語をもっと広めていきたいです。



## コクヨ文楽支援寄金助成（1 件 250 万円）

大阪が育んだ日本を代表する伝統芸能・文楽の未来への継承を目的に、将来の鑑賞者育成を視野に入れた取り組みを支援

## 「そうだ文楽へ行こう！！ワンコインで文楽」(伝統芸能)

助成先：公益財団法人文楽協会  
場所：国立文楽劇場（大阪市中央区）  
実施期間：2022 年 11 月～2023 年 1 月

**活動概要：**若い世代に文楽により親しんでもらおうとワンコイン 500 円で文楽劇場の本公演が鑑賞できる「ワンコイン文楽」。観劇前に文楽技芸員によるミニレクチャーが行われ、文楽をより身近に感じられる趣向も施され若者から人気を集める。2022 年コロナ禍による 2 年間の中断を経て再開。2014 年から始まったこの取り組みの 7 年目にあたり、現在はコクヨ株式会社からの寄付から助成している。すでにのべ 3,500 人以上がこの取り組みを通して文楽を鑑賞しており、将来の文楽鑑賞者の裾野を広げることに多大に貢献している。  
**主催者からの声：**コロナ前の観客数には戻っていませんが、若い方々に文楽の魅力を知ってもらいたいです。



## 未来アート寄金助成（3 件 90 万円）

総額 90 万円を、現代美術およびコンテンポラリーダンスの活動を行う個人に対して支援

## 田村 友一郎（たむら ゆういちろう）(現代美術)

助成額：40 万円  
場所：あいち国際芸術祭（常滑市）  
実施期間：2022 年 7 月 30～10 月 10 日

**活動概要：**招待参加したあいち国際芸術祭 2022 に新作の映像インスタレーション「見えざる手」を出品。会場の常滑市は戦前より陶業が盛んで、中でもお土産品となる陶製人形は輸出され地域経済を支えていた。しかし円高の影響で衰退・消滅。田村は 1985 年のプラザ合意が結果的に常滑の経済に決定的な影響を与えた点に着目し、経済を理論化した高名な経済学者たちを人形浄瑠璃の黒子に見立て、プラザ合意の舞台裏を演じさせる手法をとった。また会場のかつて製陶工場倉庫であった古い建物も印象的であった。  
**田村さんからの声：**作品の CG 部分の費用が大幅にかさむこととなり、助成金がもらえて助かりました。



Photo: ToLoLo studio

## 高野 裕子 (たかの ゆうこ) (コンテンポラリーダンス)

助成額：20 万円  
場所：GULIGULI (池田市)  
実施期間：2022 年 8 月 27 日～28 日

**活動概要：**コンテンポラリーダンサーの高野裕子が新作「home」を上演。「home」の意味を広くとらえ、現実や心の中にある帰りたい場所、会いたい人、時間、物、風景などを考察し、表現方法として身体・言語・音・上演環境を意識したダンスパフォーマンス作品を制作した。コロナ禍のため、外気を取り入れながら上演したことで、外部の空気や温度が感じられる公演となった。上演後にアフタートークを開催し、ゲスト、出演者、観客それぞれが言葉を交わし、作品への多面的な視点を浮かび上がらせた。

**高野さんからの声：**ASKの助成がコロナ禍でなかなか踏み出せなかった公演開催へのきっかけとなりました。



Photo: 高橋拓人

## 内田 結花 (うちだ ゆか) (コンテンポラリーダンス)

助成額：30 万円  
場所：せんだいメディアテーク (仙台市)、ArtTheater dB KOBE ほか (神戸市)  
実施期間：2022 年 6 月 19 日 (仙台市)、2023 年 3 月 26 日 (神戸市)

**活動概要：**コンテンポラリーダンサーの内田が中根千枝とデュオで取り組むダンス作品シリーズ「移動する暮らし」をせんだいメディアテークと神戸市長田区でそれぞれ上演。街中などの様々な環境に作用し、またその影響を受けながら、身体の流転と「暮らす」という場所への依拠性を交錯させた作品を演じる。神戸の公演では、劇場から場所を漁港に移して上演が続き、観客の想像力を海へと解き放つ趣向も盛り込まれた。

**内田さんからの声：**海辺での上演の際、偶然通りがかった方に見ていただけたことも今回の成果でした。



Photo: 阪下混成

## 上町台地現代アート創造支援寄金助成 (3 件 150 万円)

大阪の上町台地にまつわる歴史、宗教、文化などのさまざまな様相を現代アートを通して浮かび上がらせる活動を支援

## フィールドワーク&ワークショップ フォトめぐり俊徳道 (美術)

助成先：兼子裕代  
助成額：25 万円  
場所：四天王寺本坊、阪口楼、旧黒田藩蔵屋敷長屋門 (大阪市)  
実施期間：2022 年 9 月 17～18 日 (ワークショップ)、10 月 12 日～23 日 (展示)

**活動概要：**小説家・後藤明生の『しんとく問答』で言及されている後藤が撮影した上町台地のスナップ写真。書籍に未掲載のこれら「不在」の写真に触発された兼子は、後藤の足跡をたどりながら「スナップ」の再現を試みるワークショップを行い、13 名が参加した。また自らも『しんとく問答』にまつわる上町台地をテーマにした写真作品を制作。それらの作品は上町台地をテーマにした「オルタナティブ・ロマン」展で展示された。

**兼子さんからの声：**多くの方のご協力で実現できました。他者と協働することの大切さを感じました。



## ダイアゴナル・ワークス -上町台地における「斜めの線」を探る一連の活動および展示形式の拡張- (美術)

助成先：笹原晃平  
助成額：25 万円  
場所：阪口楼 (大阪市)  
実施期間：2022 年 10 月 12 日～23 日 (展示)

**活動概要：**上町台地各所の複雑な都市景観と構造の中に共存性を見出し、写真による刹那的な状況への継続的な考察と、場所の発見から利用に至るまでのコミュニケーションを通年で実施。成果発表は「オルタナティブ・ロマン」展において行われ、天王寺公園隣接の元料亭「阪口楼」、あべのハルカス内カフェ、改修中の大阪市立美術館といった特異な会場にてインスタレーション作品を発表した。

**笹原さんからの声：**これまでの制作方法を推し進め、新たな展開にもチャレンジができました。



## オルタナティブ・ロマン展 (美術)

助成先：上町台地アートワークス実行委員会  
助成額：100 万円  
場所：阪口楼、旧住友吉左衛門茶臼山本邸土蔵、旧黒田藩蔵屋敷長屋門、あべのハルカス、浄国寺 (大阪市)  
実施期間：2022 年 10 月 12 日～23 日

**活動概要：**天王寺公園周辺複数箇所にて、松田壯統、Yukawa-Nakayasu、葎村太一、兼子裕代、笹原晃平による展覧会「オルタナティブ・ロマン」を開催。各作家によるサイトスペシフィックワークを展示し、美術関係者のみならず地域住民の方々など 1,936 名の来場者数を記録。上町台地で数年かけて展開された各作家の表現行為に、鑑賞者がじっくりと向き合う環境を創出した。

**主催者からの声：**初めて現代美術に触れた方々など、多くの地域住民の皆様にご来場いただけました。



## ソフィア寄金助成（1件 4.5万円）

見る人を幸せにする現代美術の平面作品の制作費を支援

### 庭の音 garden notes 展への出品作品の制作（美術）

助成先：山本理恵子  
助成額：4.5万円  
場所：クロスホテル大阪（大阪市）  
実施期間：2022年8月7日～8月21日

**活動概要：**大阪の心斎橋にあるクロスホテル大阪で開催された展覧会「庭の音」garden notes に出品した作品を制作。この展覧会は、アーティスト小出麻代との2人展として開催され、山本が手掛ける絵画のほか、小出の映像作品と表現内容が入り混じる作品や、交換日記のように2人で交換しながら作品要素を付け加えながら制作される作品など、コラボレーション展として意欲的な取り組みとなった。

**山本さんからの声：**ASKの助成金で制作に向けて画材などを用意することができて、助かりました。



## 一般公募助成

（15件 500万円）

サポーターズクラブの会費や自動販売機からの寄付など、特に使い途の指定のない寄付から支援

### 西條 茜（さいじょう あかね）（美術）

助成額：25万円 主な活動：アートコートギャラリーでの個展開催のための作品制作  
場所：滋賀県立陶芸の森（甲賀市）、アートコートギャラリー（大阪市）ほか  
実施期間：2022年6月7日～9月30日

**活動概要：**従来の陶芸の概念にとらわれず、作品に関わる文脈や、陶芸の内部と外部の関係性などをテーマにした作品を手がけ注目される。大阪のアートコートギャラリーで開催する個展にむけて、滋賀県陶芸の森に滞在して制作を行った。作品を使った身体性を際立たせるパフォーマンスを想定し、そのための大型作品を数点制作。パフォーマンスは陶芸を超えた新たな領域を示すものとなった。第1回 MIMOCA EYE 大賞を受賞。

**西城さんからの声：**身体性の試みを超えて、陶芸における触覚や聴覚の深化の可能性も探ってみたいですね。

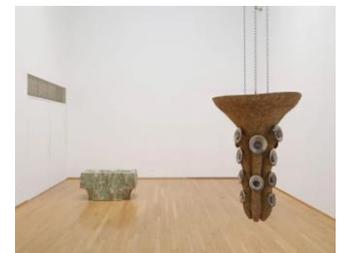


Photo: 来田猛

### 葎村 太一（よしむら たいち）（美術）

助成額：30万円 主な活動：Marco gallery 個展およびはならあと 2022 のための作品制作など  
場所：Marco Gallery（大阪市）、はならあと 2022（天理市）ほか  
実施期間：2022年7月8日～24日（大阪市）、10月21日～11月7日（天理市）

**活動概要：**葎村は木材を彫刻して作品を制作するが、いわゆる彫刻作品として閉じたものではなく、見る者に様々な思考や様相を喚起させる作品を手がける。ネットで目にしたロサンゼルス街中のグラフィティをその位置情報とともに木彫化した作品や、海から遠く離れた商店街の旧サーフショップを会場に、木材でサーフボードを作り、それを使って海で実際にサーフィンを試み、また背負って登山をする映像作品などを制作した。

**葎村さんからの声：**制作費をいただいて、制作に時間がとれ、妥協のない作品制作が可能となりました。



### 野村 由香（のむら ゆか）（美術）

助成額：55万円 主な活動：「京芸 transmit program 2022」、東九条アンサンブルの企画・作品制作など  
場所：ギャラリー@KCUA（京都市）、ノランノラン（京都市）ほか  
実施期間：2022年4月9日～6月26日（@KCUA）、10月28日～11月6日（東九条アンサンブル）

**活動概要：**生き物が生きる為に行う普遍的な営みに関心を持ち、自然や暮らしに作用する大きな「力」や抗いがたい他者の存在、認識からこぼれ落ちてしまうものなどの作品化を試みる。近所のため池の枝や枯れ葉を土と混ぜ塗り固めて作った巨大な球体をギャラリーに展示し、自然のありのままを強烈に視覚化した作品や、京都の東九条地区の人々と同じ視野を共有して行う文化交流などを、自身の芸術活動として取り組んだ。

**野村さんからの声：**助成金で作品制作や企画に費やす時間が増えたことが非常に有り難かったです。



Photo: 来田猛

### 山中 SUPLEX（美術）

助成額：60万円 主な活動：共同アトリエ・芸術団体リサーチ/ネットワークの構築など  
場所：大阪市、出雲市、鳥取市、広島市、今治市、静岡市、相模原市など計30箇所で開催  
実施期間：[リサーチ]2022年4月～2023年3月 [成果発表]2023年3月19日（大阪市）

**活動概要：**京都と滋賀の県境の山中町にある共同スタジオ。展覧会やトークイベントなど外部へ開かれた活動に積極的に取り組みコレクティブとして注目を集める。2022年秋より大阪市内に別棟「MINE」をオープンさせ、大阪での活動も開始。ASKの助成で、全国の共同スタジオ30箇所に出向いてインタビュー等を行い、同世代のアーティストとの意識共有やネットワーク化に取り組んだほか、成果発表のトークイベントを開催した。

**主催者からの声：**地域の特性や共同体のあり方から様々な創造的なアイデアや知見を得ることができました。



## 金 サジ (きむ さじ) (美術)

助成額：20万円 主な活動：写真集『物語』の制作準備、個展「山に歩む舟」の開催など  
場所：大阪市内のロケ地（大阪市）、PURPLE（京都市）ほか  
実施期間：[撮影ロケ] 2022年6月～7月、[展覧会]2022年10月27日～11月14日（PURPLE）

**活動概要：**2018年より始めた歴史・文化・ジェンダー・格差といった社会の諸様相を形作る様々な物語を、入念に作り込んだ設定のもとで制作する写真シリーズが今年、写真集『物語』として出版された。アイデンティティの揺らぎや葛藤、世界の根底を覆す疫病や戦争に際し、私たちは何をよりどころとして生きていくのか。その最終的な作品撮影を行ったほか、京都のギャラリーPURPLEで出版記念の個展を開催した。  
**金さんからの声：**ASKの助成金で撮影をしてきた作品集がついに完成しました！ありがとうございました。



## 荒木 優光 (あらか まさみつ) (美術)

助成額：20万円 主な活動：gallery aMでの個展「そよ風のような、出会い」にむけた作品制作  
場所：京都市立芸大音楽棟（京都市）、gallery aM（東京）  
実施期間：[作品制作] 2022年4月～8月、[展覧会] 2022年8月27日～10月15日

**活動概要：**音響と映像を組み合わせたインスタレーションなど、美術、音楽、舞台表現の領域を自由に行き来するジャンル横断的な活動で注目を集める荒木優光。実験的な表現の場として知られる gallery aMで個展を開催。スマホやSNSで垣間見る出来事や人にサウンドトラックを付けるという構想が、絶妙な距離感のある人物との偶然の出会いによって、「誰かから誰かへの、そよ風のようなメッセージ」へと意味が深化した。  
**荒木さんからの声：**助成金で制作に余裕が出来て、集中して取り組むことができましたと思います。



## Squander 実行委員会 (音楽)

助成額：40万円 主な活動：「Squander」、「night camp Kyoto」、「squander Podcast」の実施  
場所：Club Metro（京都市）  
実施期間：2022年2月12日

**活動概要：**音楽イベントの開催のみならず、クリエイターや文化芸術の醸成を担う者たちの相互交流の場の創出を目的に、メディア展開、カンファレンス、ワークショップなどを実施。夜が持つ文化的意味を考えるカンファレンスおよびワークショップ「Night camp Kyoto」を開催し、関西で文化に関わる多くの関係者が集まった。また先鋭的な表現を試みる音楽・美術のクリエイターらによる音楽イベント squander も併せて開催した。  
**主催者からの声：**単なる音楽イベントを超え、文化関係者をまきこんだ取り組みとなり非常に有意義でした。



Photo: 合田直生

## 橋爪 皓佐 (はしづめ こうすけ) (音楽)

助成額：40万円 主な活動：ロゼッタ公募公演「エンカウンター」  
場所：ロームシアター京都ノースホール（京都市）  
実施期間：2023年3月25日

**活動概要：**橋爪が主宰する現代音楽アンサンブル「ロゼッタ」にて現代音楽作品の公募を行い、コロナ禍の経験から演奏者が揃わなくとも成立する「分割可能性」というテーマに、海外を中心に38作品の応募があった。その中から5作品を選び演奏会で演奏。演奏会では曲の合間にラジオ風の曲解説を行う演出を施し、日常と非日常性の境目から難解さの要素を取り除くことで現代音楽を聴くことのハードルを下げる工夫を行った。  
**橋爪さんからの声：**現代音楽を「楽しむ」ことを経験してもらえたのではないかと、手応えを感じています。



## 神戸大アートマネジメント研究会 (音楽)

助成額：25万円 主な活動：子どものためのコンサート「メゾン・ド・サウンド - 音色を味わうレストラン」  
場所：シーサイドホテル舞子ピラ神戸あじさいホール（神戸市）  
実施期間：2022年9月11日

**活動概要：**学生サークル神戸大アートマネジメント研究会が、子どもたちに本格的なクラシック音楽を届けようと企画から当日の運営までを行うコンサート。今回で15回目。今年は金管楽器五重奏のメンバーが出演し、コンサートをレストランに見立てて、進行役のウェイターの案内で、金管楽器ならではのきらきらとした音色を、おいしい料理を味わうように子どもたちに感じてもらうような趣向を取り入れた。  
**主催者からの声：**レストランという切り口で、好きな音楽を見つけて欲しいという趣向が伝わったと感じます。



## 堀江 恵太 (ほりえ けいた) (音楽)

助成額：30万円 主な活動：堀江トリオと仲間たち、YOUTHful DreAmerS、スーパークラシックアンサンブル  
場所：吹田メイシアター中ホール、大ホール（吹田市）  
実施期間：2022年4月22日（堀江トリオ）、7月30日（YOUTHful）、11月5日（スーパークラシック）

**活動概要：**関西フィルハーモニー管弦楽団アソシエイトコンサートマスター（2023年4月就任）として活躍する堀江は、同世代の音楽家に声をかけ積極的に自主企画による演奏会活動を行うことで知られる。中でも弦楽六重奏 YOUTHful DreAmerS は、立上舞、上山瑞穂、東条慧、櫃本瑠音、山根風仁といった、いずれも世界のトップステージで活躍するメンバーからなる室内楽アンサンブルで、圧倒的な水準の演奏を披露した。  
**堀江さんからの声：**本当に良い演奏は必ず人の心に届くことを実感しながら演奏させていただいています。



## あとリエミノムシ（舞台芸術）

助成額：40万円 主な活動：あとリエミノムシでの糸あやつり人形劇団みのむしの公演活動  
場所：あとリエミノムシ（京都市）  
実施期間：2022年7月～2023年3月

**活動概要：**1975年に旗揚げし、プロ劇団としてこれまでに数多くの公演を行い、オリジナルの人形を製作してきた。これまでに製作した人形は2000体を超える。子供に限らず大人も楽しめる作品を手がけるほか、日本の伝統的な糸操り人形の技術を受け継ぐ日本でも数少ない劇団として、その技術の継承活動にも取り組んでいる。2011年に京都に「あとリエミノムシ」を創設し、そこを拠点に毎月定期公演を行っている。  
**主催者からの声：**助成金をいただいたことで、技術の継承の部分により取り組めるようになりました。



## 一般社団法人 iaku（舞台芸術）

助成額：25万円 主な活動：演劇公演「あつい胸さわぎ」  
場所：インディペンデントシアター2nd（大阪市）  
実施期間：2022年8月18日～22日

**活動概要：**社会問題を正面から扱う劇団 iaku の「あつい胸さわぎ」は若い女性の乳がんをテーマにした作品。大阪のどこにでもいる母と娘。しかし突然、娘に乳がんの診断が下り、二人の世界は一変してしまう。緻密に練り上げられた会話のリアリティと複雑に交錯する人間関係が、物語に厚みを加えていく。この作品は2019年の初演の際に各方面から高く評価され、女優の常盤貴子が母役を演じる形で映画化された。  
**主催者からの声：**映画版の監督にもアフタートークに参加いただき、映画との相乗効果を図りました。



Photo: 井手勇貴

## 8.22 企画（舞台芸術）

助成額：35万円 主な活動：演劇公演「さくらんぼ畑」  
場所：Theater E9 Kyoto（京都市）  
実施期間：2022年10月28日～30日

**活動概要：**俳優・杉江美生が主宰する8.22企画が取り組んだチェーホフ原作「桜の園」を新訳版「さくらんぼ畑」として上演する試み。定番の戯曲に新しい光を当てる試みであるほか、俳優の技量向上を目指し、海外の演劇メソッドを使った稽古を行い公演に臨んだ。舞台は革命前夜のロシア。社会が多くの矛盾を抱えて大きく動こうとする中、過去の栄光にすがり、社会の荒波にもまれて没落していく貴族の姿が描かれた。  
**主催者からの声：**様々な意見がありましたが、有名な戯曲の再構築に挑戦した意義は大きかったと思います。



Photo: 村上信六

## 吉田 玉翔（よしだ たましよう）（伝統芸能）

助成額：30万円 主な活動：人形浄瑠璃「文楽夢想 継承伝」  
場所：国立文楽劇場（大阪市）  
実施期間：2022年8月6日

**活動概要：**人形遣いの吉田玉翔を中心に、若手の技芸員たちに経験を積ませることを目的として、若手とベテランが通常の枠を超えた配役で演じる試みで、昨年に引き続き2回目の開催。普段見ることができない配役、師匠に挑む若手の姿を観客の前で見せることで、本番の舞台でしか成しえない若手技芸員たちの「今、出来ること」を最大限表現できる修練の場となった。またその熱気が客席にも伝わり会場は大いに盛り上がった。  
**玉翔さんからの声：**この度「関西元氣文化圏賞」・特別賞を受賞させていただき、身が引き締まる思いです。



Photo: 桂 秀也

## ナニワノヲト（伝統芸能）

助成額：25万円 主な活動：ひみつのトークライブほか  
場所：朝陽会館（大阪市）  
実施期間：2022年10月7日

**活動概要：**能楽囃子方の若手男子4人組ユニット。能楽を支える囃子方の魅力を若い世代の感性のまま解き明かそうと精力的に活動している。「ひみつのトークライブ」は、大槻能楽堂にて10月28日に彼らが開催した主催公演「乙女心がわからないので古きを温ねてみた」で演じる演目について、その公演に先駆けて、カジュアルな雰囲気の中で、出演者たちが何を思い、感じ取っているかを語り合うトークイベントとして開催。  
**主催者からの声：**大槻能楽堂での本番に向けて、私たち自身も演じる演目について理解が深まりました。

